

アジアの子ども

アジアの子ども No.64
アジア保健研修所 (AHI)
ニュース 351号
2017年8月1日発行



ジャングルボーイ

きき
消滅の危機にあるインドネシア・スマトラ島の熱帯雨林から

赤道直下で、典型的な



雨季

11～4月
平均26℃～27℃

午後になるとスコールのような大雨が降り、湿度の高い日が続く。



島の数、なんと
1万3,466！



インドネシアのこれまで

- | | | | |
|-------|-------------------------------------|------------|----------------------------|
| 7世紀 | スマトラ島、ジャワ島に、仏教王国が栄え、バリ島にヒンドウ文化が伝わる。 | 1945年8月17日 | スカルノ氏がインドネシアの独立を宣言、初代大統領に。 |
| 13世紀 | イスラム教の渡来。イスラム小王国誕生。 | 1949年 | オランダとの独立戦争終結。 |
| 1602年 | オランダが、ジャワ島に東インド会社を設立。 | 2004年 | 国民による初の直接投票。ユドヨ氏が大統領に選出。 |
| 1799年 | オランダが直接統治。 | 2009年 | ユドヨノ大統領再任。スマトラ沖大地震発生。 |
| 1942年 | 第2次世界大戦。日本軍による占領。 | 2014年 | ジョコ・ウィドド大統領就任 (第7代大統領) |

熱帯雨林気候

乾季

5 ~ 10月
平均 27℃ ~ 28℃



ほとんど雨が降らず湿度もやや低め。比較的過ごしやすい。



インドネシアには小額の硬貨がないので、お店でお釣りをキャンディで支払うことが多い。

国名：インドネシア共和国

人口：約 2.55 億人 (2015 年)

面積：約 189 万平方キロメートル

民族：大半がマレー系 (ジャワ、スンダ等約 300 民族)

宗教：イスラム教 87.21%、キリスト教 9.87%、など

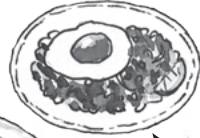
言語：インドネシア語

人口は日本の約 2 倍！
面積は約 5 倍！

外務省 HP より

方言も入れると 750 以上もの言語があり、同じ島でも言葉が通じないことがある。

インドネシアのお札。
0 がいっぱい！



ナシ (ごはん) + ゴレン (炒める) = 焼き飯



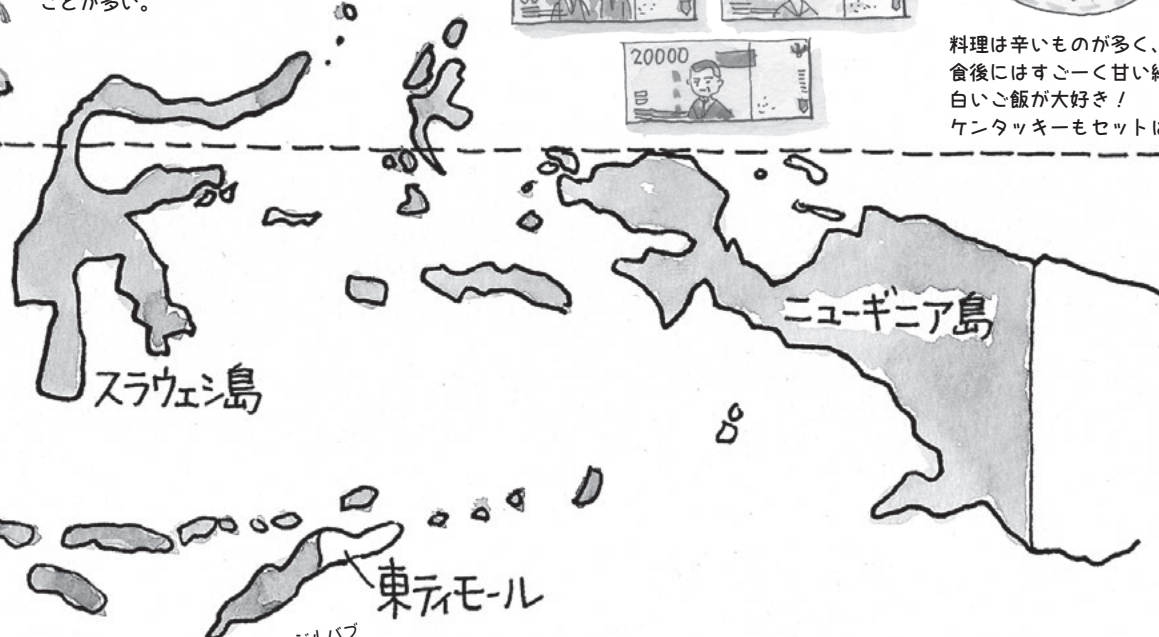
ミー (麺) + ゴレン (炒める) = 焼きソバ

どちらも屋台で 100 ルピアくらい (約 80 円)



サテアヤム 1本 20円くらい

料理は辛いものも多く、食後にはすごく甘い紅茶を飲む。白いご飯が大好き！ケンタッキーもセットはご飯！

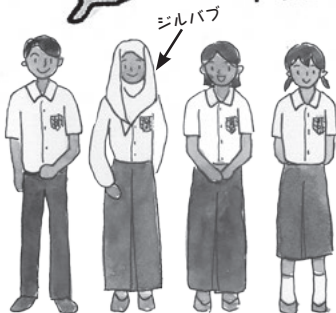


インドネシアの学校

識字率 93.3%

就学率 小学校 92.2% 中学校 76.10%

学校は普通の学校 (スコラ) とイスラム教の学校 (マドラサ) がある。どちらの学校でも相互の通学が可能。オラン・リンバなどのような少数民族のなかには住民票がないため学校に行けない子どもたちがいる。彼らは統計に含まれていない。



小学生とキリスト教の学校以外は足首までのズボンとスカート。ジルバブをつける女子、イスラム教学校の生徒は上も長袖のシャツ。

ぼくはベサルティ、12才。

ここはインドネシアのスマトラ島にあるジャングル。
ぼくたちオラン・リンバは、狩りをしたり、木の实やはちみつを採ったりして、ジャングルで暮らしてる。
ご先祖様も、ずーっとそうしてきた。



父さんは、10年くらい前から何か所かでゴム畑を始めた。

ぼくたちはそのゴム畑の近くを、他の家族と
一緒にグループを作って、移動しながら
暮らしてる。

だから家はすぐ引越してできるようになってるんだ。

父さんは、ゴムの樹液を売って、町で家族の
ための買い物をしてきてくれる。

母さんは料理や洗濯、ぼくたち子どもの
世話で毎日忙しい。

ぼくも父さんや母さんの手伝いをしたり、
弟や妹の面倒もみたりするよ。



オラン・リンバ

スマトラ島のジャングルに住む先住民。多くのグループが定住化していく中で、ベサルティのグループは今もジャングルに住み、焼畑や狩猟採集をし、精霊と先祖の教えに基づいて生活している。「オラン」は「人」、「リンバ」は「ジャングルに生きる」の意味。



ぼくは、ジャングルが大好き！

川では魚を捕まえるんだ。

釣りざおやあみを使ったり、もりてついたり、
時には手づかみにすることだってあるんだよ。

大人たちはワナを仕掛けてシカやイノシシを捕まえるけど、
ぼくたちの得意技はパチンコだ。

木の高い枝にいるリスやヘビを狙い撃ちにしたり、鳥や
コウモリだって打ち落としちゃうんだよ。

ジャングルゼ～んぶがぼくたちの遊び場、
遊びながらジャングルで生きる知恵を学んだ。





あ、来た来た学校が、向こうから。

ぼくらの学校は、移動式。

ワルシ[※]っていうNGOの先生が、背^せ中^{なか}に
黒板^せを背^お負^おってやってくるんだ。

ぼくらの「森の学校」では、教科書やペンの他に、
木の実や狩りの獲物^{えもの}、木の枝なんかも使って、
読み書きや算数を習う。

教室はどこかって？

だれ
誰かの家だったり、木の下や小川のほとりだったり。

ワルシ (WARS I)

インドネシアで環境保護活動^{かんきょうほごかつどう}をしているNGO。「森の学校」は、ワルシが2004年から始め、
これまでに数百人に読み書きや算数を教えてきた。先住民が契約書類^{けいやくしょるい}を理解できないまま土地
の売買に合意させられてしまうなどの不当な取引から守るのが目的。定住しないオラン・
リンバの生活スタイル^{じゅうまいりょう}に合わせて、先生と一緒に移動しながら授業をしている。

今日は、このブランコの上！

でも最初は、大人たち、特に母さんたちは
森の学校に大反対だった。

勉強していろんなことを知ったら、ぼくたちが
ジャングルから出て行っちゃうって心配したのかな。

むかし、先生の一人がマラリアで死んじゃったときも、
学校をジャングルに持ち込んだ祟りだって
言われたらしい。

その後、ワルシの先生たちの長い長い説得があった。
大人たちも、これからのオラン・リンバの生活を守る
ためには学校が必要だと納得したんだ。





ぼくは、森の学校で、読み書きや簡単な計算は
できるようになった。でももっと勉強したいと思った。
町の学校だったら、もっといろんな勉強ができて、
ゴム農園を始めた父さんみたいに、ぼくも何か始められるかもしれない。
ジャングルの外に暮らす人たちにだまされたり、バカにされることもなくなる。

森の学校で5年間勉強したあと、ついにジャングルを出て、
町の学校に通えることになった。
ぼくはとってもうれしかった。
森の学校の先生も喜んでくれたよ。

父さんはバイクを買って、
ワルシの人にそのバイクで
学校まで送り迎えしてくれるように
頼んでくれた。



半年後、森の学校にもどったほくに、
ワルシの先生が話しかけてきた。

先生： ベサルティ、町の学校はやめちゃったんだって？

ベサルティ： うん、初めは本当にうれしかったんだよ。
もっと勉強もしたかったし。でも…。

先生： でも？

ベサルティ： なんかちが違うんだ、全然違うんだよ。
勉強は机つくえの前に座すわってやらなきゃいけないし、
時間だって決まってる。
分からなくても授業はどんどん進んじゃうし…。

先生： でもベサルティ、もっといろんなことが
知りたかったんだろう？

ベサルティ： そうなんだけど…。

先生： …、そうだね。
行きたくなったらまた行けばいいよ。

ベサルティ： うん。
ぼく、ジャングルが好きなんだ。
これからもここで暮らしていきたい。
父さんやおじいちゃんがそうしてきたみたいに。



でも実際、ベサルティが住む森のまわりでは…

(イメージ図)

豊かだった自然

スマトラ島は、1万種以上の動植物がすみ、世界でも有数の生物多様性を誇る地域です。『黄金の島』と呼ばれたこの島は、うっそうと生い茂った熱帯林に覆われていましたが、ここ30年で約半分の森林が消失しました。

逃げ場を失った
オランウータン

移動しながら暮らす

ベサルティの家

不法伐採

森林火災

ゴム畑

追われる先住民たち

何世紀も森に暮らしてきたオラン・リンバのような先住民は、植林地開発のための伐採や焼畑によって、居住地が縮小されています。また、大規模な農園を支える安価な労働力として、他の島から多くの人たちが移住しています。その移住者と先住民の間で、土地をめぐる争いも起こっています。

ベサルティの家まで
歩いて3時間

ワルシの事務所

ゴム畑

先生

紙がトラを追い詰める

紙の原料となるパルプのための植林地開発や、密猟により、スマトラトラは70%が減少。オランウータンはスマトラ島南部では絶滅しました。またすみかを追われたゾウやトラが人の住む村に近づき、畑を荒らすなどの問題を起こしています。

畑を荒らすゾウ

水の森が火の海に

スマトラ島には『水の森』と呼ばれる泥炭湿地位があります。常に水に満たされ、枯れた樹木が何百年も積もって、ゆっくりと森が作られます。しかし1990年代に、排水路を掘り泥炭地を乾燥させて、森林を伐採するという大規模な開発が進められ、乾燥が進んだ泥炭層からは大量の炭素が大気中に放出。インドネシアは世界第4位の温室効果ガス排出国に。また泥炭地は乾燥することで火が付きやすくなり、焼畑や森林火災による煙がまわりの国々にまで広がり、国際問題にもなっています。

えんがい
煙害



水路を掘る
パワーシャベル

泥炭地

パーム
(油ヤシ)

パーム油工場

パーム1房
30~40kg

港に向かう
タンクローリー

1粒は
鶏卵くらい

広がるパーム農園

熱帯林の減少は、パーム油やパルプを採るための植林地開発や伐採が主な原因です。パーム油の多くは『植物性油脂』と表示され、スナック菓子やインスタント食品、洗剤、化粧品などの日用品の原料として世界中で利用されています。また私たちが使う紙の多くがスマトラ島で伐採した木で作られるパルプを原料にしています。

ジャワ島
からの移民

日本は紙の生産量・消費量
ともに世界第3位
(2014年・2015年)

この物語を読んでくださった 日本のみなさんへ

クリスティアワン（通称クリスト）
インドネシア環境保全コミュニティ
（WARSI=ワルシ）
民族問題調査研究支部次長
2016年度AHI国際研修参加



1970年代以後、スマトラでは何万ヘクタールもの熱帯雨林が破壊されました。数多くの動植物が絶滅し、現在も絶滅の危機に瀕している種がたくさんあります。

オラン・リンバはジャングルに生きる先住民のグループです。彼らは大昔から、暮らしのすべてをジャングルの恵みに頼り、暮らしのためにジャングルを守ってきました。しかし今、“家”と生活の資源を失って、その日の暮らしに追われています。中には、オラン・リンバ特有の文化や伝統さえも失ってしまった人たちもいます。そのため町の人びとは、オラン・リンバのことを教養のない貧しい人間だと思ってしまうようになり、彼らを最も低い地位に置いてしまいました。

ベサルティはジャングルで生まれ、ジャングルで育ち、オラン・リンバであることに誇りを持っています。「森の学校」に通いながら日常生活を送る中で、町の学校で勉強したいという気持ちを持ちました。しかし今は、町の学校を辞めてジャングルに戻っています。勉強についてゆくのが大変だったのと、町の子どもから馬鹿にされたことがあったようです。今は、グループの小さい子どもたちに、読み書きを教えたりしています。

私たちが生きていくうえで、そして特にそこで暮らすオラン・リンバにとっては、ジャングルはなくてはならないものです。日本の若い皆さんが、この物語を通して、ジャングルを守るために何かしたいと考えていただけたら、とてもうれしく思います。

私たちは、未来の人間の暮らしのためにジャングルを消滅の危機から救い、守ってゆく活動を続けます。ぜひ皆さんの力を貸してください。皆さんが紙や車やパーム油製品、食品のムダ使いをやめて、私たちの周りに樹木を植える活動に加わってくださることを心から願っています。

☆ 本文は上記の研修生より情報を得て編集しました。

☆ 公共・学校図書館で本号を常備される場合は別途お届けします。

☆ 本号を転載される場合は出典を明記してください。

☆ 英語版をご希望の方はAHIまでご連絡ください。

次の資料を参考にしました。（順不同）

ウィキペディア「インドネシア」<<https://ja.wikipedia.org/wiki/>>(参照 2017-2-1)。内田道雄(2016)『燃える森に生きる』新泉社。外務省「インドネシア共和国」<<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/indonesia/index.html>>(参照 2017-2-1)。グローバル・ボイス「ヤシ油はどうしてこれほどの問題となったのか。その対処法はあるのか」<<https://jp.globalvoices.org/2015/04/05/35181/>>(参照 2017-4-1)。公益財団法人古紙再生促進センター「世界の紙・板紙統計」<<http://www.prpc.or.jp/menu05/linkfile/sekainotoukei.pdf>>(参照 2017-6-1)。熱帯雨林行動ネットワーク「世界の森と私たち」<<http://www.jatan.org/archives/category/finw>>(参照 2017-6-1)。プランテーション・ウォッチ「プランテーションが抱える問題・日本との関わり」<<http://plantation-watch.org/problem/relation>>(参照 2017-3-1)松岡 達英(2011)『山猫たんけん隊』偕成社。横塚眞己人(2013)『ゾウの森とポテトチップス』そうえん社。リリ・リザ監督『ソコラ・リンバ』(Miles Films 2013)。WWF「インドネシアの森林保全」<<https://www.wwf.or.jp/activities/nature/cat1248/cat1242/>>(参照 2017-4-1)。YouTube「KKI Warsi Peduli akan Orang Rimba」<<https://www.youtube.com/watch?v=GScJDlappQk>>(参照 2017-6-1)。



発行所 公益財団法人 アジア保健研修所 (AHI)

〒470-0111 愛知県日進市米野木町南山 987-30 Tel: 0561-73-1950 Fax: 0561-73-1990
E-mail: info@ahi-japan.jp HP: <http://www.ahi-japan.jp> 郵便振込: 00870-8-49688

日々の活動は、ブログ『AHIの事務所から』やFacebook『AHI Facebook』で!

AHIはアジア各地の村々で人々の健康を守るために活動する現地の保健ワーカーを育成している NGO です。AHIへの会費および寄付は税額控除の対象となります。

◆発行責任者: 斎藤尚文

◆編集者: 『アジアの子ども』編集委員会 (神谷欣吾、佐藤由佳子、原田孝子、福島純子、

細井和世、本間慧、諸橋美月)

◆イラスト: 首藤光子、佐藤由佳子

◆担当職員: マクレナン陽子